

2020/8/17

# 市町村学力向上アクションプラン(令和2年度版)

教委名	姫島村 教育委員会	
作成者	職	学校教育課長 氏名 岸本 誠司
所属	姫島村教育委員会	TEL 0978(87)2112

平成31年(令和元年)度

### 1 平成31年(令和元年)度の学力の状況

#### ① 平成31年度 全国学力・学習状況調査結果(平均正答率)

教科	小学校(6年)		中学校(3年)		
	国語	算数	国語	数学	英語
市町村	62	69	63	45	48
大分県	67	67	74	61	55
全国	63.8	66.6	72.8	59.8	56.0

#### ② 平成31年度大分県学力定着状況調査結果(偏差値)

教科	小5国語		小5算数		小5理科	
	知識	活用	知識	活用	知識	活用
市町村	52.7	52.3	51.1	49.0	51.3	50.4
大分県	52.1	51.6	52.2	52.1	52.2	51.3

※大分県は市町村立学校の数値

教科	中2国語		中2社会		中2数学		中2理科		中2英語	
	知識	活用								
市町村	47.2	43.0	46.4	44.1	49.8	48.4	45.7	48.0	45.3	45.9
大分県	51.8	50.5	50.5	50.3	50.7	50.6	50.9	50.5	50.3	50.3

### 2 平成31年(令和元年)度の目標及び指標・達成状況

#### 【目標】

① 児童・生徒の学力に関する目標  
「か」に「こ」タイム」「か」に「こ」チャレンジタイム(小)「や」は「ず」タイム」「週」末課題(中)などの補充的な学習を計画的に継続して実施することにより、基礎・基本の定着を図る。  
「新」大分スタンダードに基づく授業実践を徹底するとともに、各教科の見方・考え方を働かせる展開する授業づくりを行うことにより、主体的・対話的で深い学びを意図した「聞く」「話す」「読む」「書く」力の育成を図る。

② 学校等が抱える組織的・構造的課題に関する目標  
校内研修を活用し、「めあて」「課題」「まとめ」「振り返り」において、学習の見通しや意欲を持たせたり、成果を実感させたり、次の学習につながる自信や意欲を高めたりするよう、授業の質の向上を図る。  
「家庭学習の手引」をもとに、家庭との連携を推進し、家庭学習習慣の定着を図る。  
基礎・基本の定着を目指した、「か」に「こ」塾(小4～小6)」「水曜日塾(中2)・土曜日塾(中3)への参加を呼びかけ、学校・家庭・地域(村教委)が連携した学力向上の取組を継続して計画的に推進する。

#### 【目標の達成状況】

① 小6算数は全国・県平均、小5国語は県平均を上回ったが、他は全国・県平均を下回った。  
「めあて」「課題」「まとめ」「振り返り」の運動によるわかる授業の展開(小学校)、「めあて」「振り返り」が明確化された1時間完結型授業(中学校)を授業改善の重点として、授業の質の向上を図った。  
・家庭学習時間(予習・復習含)が、全国・県平均に比べて短い。  
・か」に「こ」塾(小4～小6)の参加率92%、水曜日塾(中2)の参加率86%、土曜日塾(中3)の参加率90%であった。

② 中学校「や」は「ず」タイムの実施率は100%、週末課題の実施率は100%で、分析をもとに補充学習に取り組むことができた。補充学習においては、データベースの活用を推進した。さらに、夏季休業中に5日、冬季休業中に1・2年は1日、3年は2日の補充学習を実施した。  
地域と連携した補充学習の取組では、「水曜日塾」の参加率86%(欠席者含)、「土曜日塾」の参加率は90%であった。また、学校と連携して、日報調整を行い、参加率の向上を図った。  
小学校の乗り入れ授業は、計画的に実施しており、小学校との連携を図ることができた。

#### 【達成率】

54  
S～C  
C  
達成率 80  
S～C  
B  
保護者アンケートによる達成率 72%(小中)・(83.3%・中61.0%)

#### 【達成指標】

【小学校】  
過去の調査の分析結果や単元末テストの分析結果から、各学年の課題を見出し、復習並びに弱点補強を行う。年間を通しては、朝の「か」に「こ」タイムや課後の「チャレンジタイム」を使って国語・算数の補充学習を毎週4回年間を通じて実施する(実施率100%)と共に、読解力向上を図るための問題集を計画的に取り組み(100%)。また、意図的かつ計画的に補充問題を家庭学習の課題として、取り組ませたり、放課後か「こ」塾(11月～)などで取り扱ったりすることで、更なる理解・定着を図る。

【中学校】  
全国学力・学習状況調査、県学力定着調査の実施後、校内での独自分析を行い顕在化した課題解決の取組を、「や」は「ず」タイム(実施計画)に対しての実施率100%目標「週末課題」(実施率100%目標)「授業」を活用して行う。また、家庭学習ノート(毎日実施)を活用して学習内容の定着を図るとともに、長期休業を利用して補充学習を実施する。「水曜日塾(中2)・土曜日塾(中3)」における補充学習を、参加率100%を目標に計画的に実施する。また、小学校段階からの学力向上を目指し、数学教員・英語教員が専門的なスキルを生かし、小学校へ赴き(乗り入れ授業)、TT指導を展開する(実施率90%以上)。

#### 【取組指標】

① 村独自の総合学力調査において、各教科における目標値を上回る児童生徒の割合を75%以上にする。  
② 「家庭学習の手引」に基づいた家庭学習の取組の達成率を90%以上にする。

### 3 平成31年(令和元年)度の人的支援の効果

#### 【学力向上支援教員】

- 生徒質問紙で「数学の授業の内容がわかる」と解答した生徒は本年度77.0%で、県平均(70.7%)・全国平均(73.9%)を上回り少人数による個に応じたきめ細かな指導ができ、弱点補強、生徒の意欲向上につながっている。
- 生徒質問紙で「数学の問題について、解答を言葉や数、式を使って説明する問題がありましたか、どのように解答しましたか」という質問に対して、「書く問題は全て解答しなかった」と解答した生徒は県平均(3.9%)・全国平均(4.2%)に対して、本年度0.0%であり、「数学的に説明する力」の育成につながっている。
- 週3回の小学校6年生の算数授業へ参加し、個別の支援を行うことにより、児童の弱点補強につながっている。
- 弱点や苦手な分野の克服に向けて、数学問題データベースの問題を課題や補充学習に利用し、個に応じた指導を行うことができている。

#### 【習熟度別指導推進教員】

#### 【小学校教科担任制推進教員】 ※該当する自治体のみ記載

### 4 平成31年(令和元年)度の取組の問題点

【小学校】年度当初の学力テストや単元末テストの分析も含め、課題克服のための取組を「今月の取組の重点」として提示しているが、課題が多く徹底が不十分であった。朝の「か」に「こ」タイムや放課後の「か」に「こ」チャレンジタイムを使っての国語・算数の補充学習において、一人一人のつまずきを複数体制で把握し、個に応じた指導を行っているが、児童の自信につなげるまでには至っていない。

【中学校】補充学習や週末課題は、計画的に実施できているが、その学習内容の定着が不十分である。授業も含めて、生徒の学習状況の見取りを的確に行い、一人一人のつまずきに対する個別指導を行うことにより、個に応じた弱点補強の取組につなげる必要がある。また、家庭学習時間を確保するために、家庭と連携して家庭での学習に向かう環境整備も課題である。

### 5 今年度中にやるべきこと(令和2年1月～3月間の取組)

【小学校】1～2月中旬まで、村総合学力調査の結果をふまえて、弱点や苦手な分野の克服に向けて取り組む。基礎基本の定着を図るためのドリル学習や視写・聴写の問題集を計画的に行う。3学期末までに、全国・県学力調査や単元末テストの分析をもとに、顕在化した課題を克服するため現学年の復習を行うとともに、次年度の準備に充てる。

【中学校】全国・県学力調査および村学力テストの分析を基に、課題克服のための取組を計画的に実施する  
・週末課題「か」は「ず」タイムによる計画的な補充学習の実施  
・問題データベースの活用  
・分析を基に設定した課題克服のための授業実践  
・「や」は「ず」タイム等を活用した計画的な個別指導

### 6 令和2年度の目標及び指標

#### 【目標】

① 児童・生徒の学力に関する目標  
1) 「か」に「こ」タイム」「か」に「こ」チャレンジタイム(小)「や」は「ず」タイム」「週」末課題(中)などの補充的な学習を計画的に継続して実施することにより、基礎・基本の定着を図る。  
2) 「新」大分スタンダードに基づく授業実践を行い、本時において「努力を要する状況」の児童生徒に対する指導を工夫するとともに、「振り返り」における見とれをもとに個別指導を行うことにより、個のつまずきに応じた指導につなげる。

② 学校等が抱える組織的・構造的課題に関する目標  
1) 校内研修を活用し、「課題設定→情報収集→整理・分析→まとめ・表現・交流→振り返り・評価」の学習過程の繰り返しにより、学習の見通しや意欲を持たせたり、成果を実感させたり、次の学習につながる自信や意欲を高めたりするよう、授業の質の向上を図る。「思考力・判断力・表現力」の育成につなげる。  
2) 「家庭学習の手引」をもとに、家庭との連携を推進し、家庭学習習慣の定着を図る。  
3) 基礎・基本の定着を目指した、「か」に「こ」塾(小4～小6)」「水曜日塾(中2)・土曜日塾(中3)への参加を呼びかけ、学校・家庭・地域(村教委)が連携した学力向上の取組を継続して計画的に推進する。  
4) ICTを活用した授業づくりの推進、ICTアドバイザーを活用して教職員のICT活用力の向上を図る。

#### 【達成指標】

① 村独自の総合学力調査において、各教科における目標値を上回る児童生徒の割合を80%以上にする。  
② 「家庭学習の手引」に基づいた家庭学習の取組の達成率を90%以上にする。

#### 【取組指標】

【小学校】  
過去の調査の分析結果や単元末テストの分析結果から、各学年の課題を見出し、復習並びに弱点補強を行う。年間を通しては、朝の「か」に「こ」タイムや課後の「チャレンジタイム」を使って国語・算数の補充学習を毎週3回年間を通じて実施する(実施率100%)と共に、読解力向上を図るための問題集を計画的に取り組み(100%)。また、意図的かつ計画的に補充問題を家庭学習の課題として、取り組ませたり、放課後か「こ」塾(11月～)などで取り扱ったりすることで、更なる理解・定着を図る。

【中学校】  
全国学力・学習状況調査、県学力定着調査の実施後、校内での独自分析を行い顕在化した課題解決の取組を、「や」は「ず」タイム(実施計画)に対しての実施率100%目標「週末課題」(実施率100%目標)「授業」を活用して行う。また、家庭学習ノート(毎日実施)を活用して学習内容の定着を図るとともに、長期休業を利用して補充学習を実施する。家庭学習ノートにおいては、添削指導を行い個別指導につなげる。「水曜日塾(中2)・土曜日塾(中3)」における補充学習を、参加率100%を目標に計画的に実施する。

【小学校】【中学校】  
学校評価における保護者アンケートを学期ごとに実施し、「家庭学習の手引」に基づいた取組状況の把握を行う検証・改善につなげるとともに、PTA・HP・学校だより等を通して、保護者への啓発に取り組む。学期ごとに、家庭学習強化週間を設定し、家庭と連携した取組を重点的に行う。PTAなどを活用し、「家庭学習の手引」の保護者への周知徹底を図る。

### 7 令和2年度の行動計画

#### ①「新」大分スタンダードに基づく組織的な授業改善の推進と授業の質の向上

○1時間完結型授業  
【小学校】校内研修と連動し、主体的な学びを促すために「課題の質」「話し合い」「ふり返り」の充実を図る。  
【中学校】校内研修と連動し、主体的な学びを促すために「めあて」「課題」「まとめ」「振り返り」の設定の充実を図る。

○板書の構造化  
思考を整理し思考の過程を振り返るために、児童生徒の考えが黒板に類型化されるようにする。  
○習熟の程度に応じた指導  
具体化した評価規程をもとに、本時の中で評価を行い、個に応じた指導・特別な配慮を必要とする児童生徒への指導の工夫につなげる。  
「振り返り」をもとに見とれを的確に行い、個別指導を行う。  
○生徒指導の3機能を意識した問題解決的な展開  
「思考力・判断力・表現力」の育成のために、「課題設定→情報収集→整理・分析→まとめ・表現・交流→振り返り・評価」の学習過程の繰り返しにより、学習の見通しや意欲を持たせたり、成果を実感させたり、次の学習につながる自信や意欲を高めたりするよう、授業の質の向上を図る。

#### ②「中学校学力向上対策3つの提言」の更なる強化

1) 学校の組織的な授業改善による「新」大分スタンダードの徹底  
○ 習熟度別少人数指導教員(英語)・学力向上支援教員(数学)の活用した少人数授業の実施  
○ 定期的な互見授業・授業研究において、授業改善シートを活用し、教職員相互の授業力向上を図る。

2) 学校規模に応じた教科指導力向上の仕組みの構築  
○ くにき地区教科部会の組織をあげた取組やネットワークを活用した授業改善  
○ 地区教科部会ごとの年1回以上の授業研究会の実施と事後研究会の充実による授業改善の推進  
○ 各種学力調査の結果分析をもとに、地区教科部会ごとにその専門性を活かしたフォローアップシートの作成  
○ フォロワーの作成を通じた児童生徒の学力の課題把握により、授業のあり方を振り返り、授業改善に役立てる取組の推進  
○ 各教科担当が一人配置校のため、必然的にタテ持ちとなるため、情報共有を密に行い学力向上につなげる。

3) 「生徒とともに創る授業」の推進  
○ 生徒による授業評価を行うとともに、教職員の授業アンケートを実施し、生徒と教職員の意識の違いを明確にし、授業改善に反映する。  
○ 学習目標を設定し、学期ごとの生徒による振り返りを行い、取組の改善につなげる。

#### ③小学校教科担任制の推進

- 専門性を生かした授業展開とより深い指導により学力向上を図る。
- 児童の主体的で深い学びの実現。
- 複数の教員による児童の多面的理解を図る。
- 中1ギャップを緩和し、中学校への円滑接続を図る。

#### ④中学校英語科の授業改善の推進

- コミュニケーションの目的や場面、状況などを明確にして、言語活動中心の授業を展開する。
- 生徒がコミュニケーションのなかで英語を使って活動する場面を設定する。
- 生徒が自分の考えや気持ちを、お互いに伝え合うことを基本に据えた言語活動を実践する。
- 小学校の語彙を中学校の言語活動において繰り返し活用しながら定着させる。
- 文法においては、生徒の「気付き」を大切に指導を行い、使いながら習得できるような授業を組み立てる。

### 8 令和2年度の人的支援の希望人数

授業力向上アドバイザー		習熟度別指導推進教員		教科担任制推進教員	
小学校	人	数学	人	小学校	人
中学校	1人	外国語	1人		

市町村独自の人的・物的支援  
1. 思考力・判断力・表現力を育成する授業普及のための学力向上支援教員の活用 中学校数学1名(姫島中学校)  
2. 個に応じたきめ細かい指導及び英語力向上を進めるための習熟度別少人数指導教員の活用 中学校英語1名(姫島中学校)

令和2年度